

北斎

かわらばん

第二十七号



北斎の描いた花鳥画の世界

牡丹に胡蝶

「牡丹に胡蝶」(大判錦絵) 天保初年(1833~34)頃 ~ピーター・モース コレクションより~

咲き誇る大輪の牡丹の花と、そのまわりを舞う胡蝶を描いた、北斎七十五歳前後の作品です。

西村屋与八という版元から出版された大判サイズの錦絵で、この時期、北斎は西村屋から同様の花鳥画を本図を含めて十点発表しています。数え二十歳で浮世絵師としてデビューして以来、さまざまな作品を手がけてきた北斎ですが、この作品を発表した頃は、浮世絵の中でも多色摺り木版画である錦絵を中心に描いていました。

北斎の作品としてよく知られる大作「富嶽三十六景」シリーズや「諸国滝廻り」といったシリーズもこの時期に発表されたものです。

この頃の北斎は、波のように動きのあるものや水のように形を変えるものをどう描くかに興味を示していたようですが、それだけにとどまりませんでした。本図では風という目に見えないものを絵に描こうとしています。

形のない風というものを、その風を受けたものを描くことで表現しようとした。ここでは強い風を受けた牡丹が、画面を斜めに横切るように大きくなびいて描かれています。花びら一枚一枚がちぎれそうに翻り、裏返ったりしています。ひらひらと優雅に舞う胡蝶も、逆さまになるほどあおられています。

このように、風を受けたものを描くことで、風を表すことができ、その吹いている向きや強さも表現することができるのです。

一瞬の強風にあおられた牡丹と胡蝶の姿を捉えた北斎のまなごしには現代のカメラマンのようなセンスが感じられ、黄一色で塗りつぶされた背景も相まって、現代的な雰囲気を感じ出しています。

【発行】
墨田区民活動推進部
文化振興課
北斎美術館開設担当
(墨田区役所1階)
☎03-5608-6115
【編集協力】
(公財)墨田区文化振興財団
北斎事業課



全国に広がる

北斎の弟子へ『北斎漫画』の出版

近年、娘の応為など北斎の弟子が話題になっていますが、北斎には孫弟子まで含めると約二百人も弟子がいたとされています。

江戸時代に記された浮世絵師の伝記『浮世絵類考』も、「門人枚挙スベカラズ」と北斎に数多くの弟子がいたことを伝えていています。北斎の弟子は、江戸のみならず、小布施や名古屋、大坂など、全国にいました。

北斎は、『北斎漫画』を始めとして多くの絵手本を描いており、これらは全国にいる弟子の手本になりました。

北斎は数え五十三歳の時、

図1の『北斎漫画』初編(文化九年(一八一二)刊)を名古屋にいる弟子・牧墨僊の家に滞在中に制作します。

本作は全十五編まで続々と出版されますが、四編(文化十三年刊)の序文には、北斎に多くの人がお手本を描いてもらいたがっているが、皆に行きわたらないので、それを憐れんだ北斎が絵手本を出版して弟子達に授けたと、出版のいきさつが記されています。

北斎の絵手本には、本紙「lets北斎」でもおなじみの初心者の手本にもなるものもあります。本格的

な画法の解説もあります。図2は『画本彩色通』初編(弘化五年(一八四八)刊)に記された油絵具の作り方の解説です。①鉛の鉄砲玉を削り②削った鉄砲玉と油を七十日、土の中に埋め③それを紙で濾して絵具とするよう示されています。

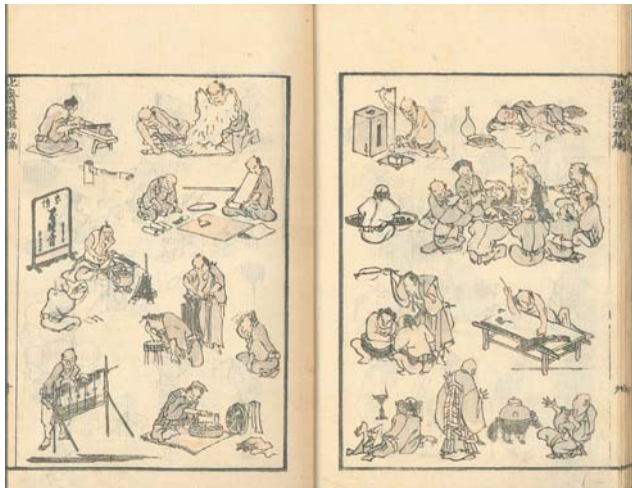


図1 『北斎漫画』初編

当時、油絵具を使った画法は最先端の技術でした。このように、北斎は、初心者から本格的な絵師まで幅広い弟子に慕われたと考えられます。

急増!

派手なパフォーマンスで弟子が急増!

北斎に多数の弟子がいた理由は複数考えられます。北斎の絵が多くの人の心を打ったことはもちろんのこと、派手なパフォーマンスを轟かせたことも理由の一つです。

北斎は將軍家齊公に召され、浅草伝法院で絵を披露したという逸話が伝わっています。

その時、北斎はまず花鳥山水を描いて賞賛を得ました。次に長い紙に、藍色の線を刷毛で長く引いた後、その上に足に朱を塗った鶏を放しま

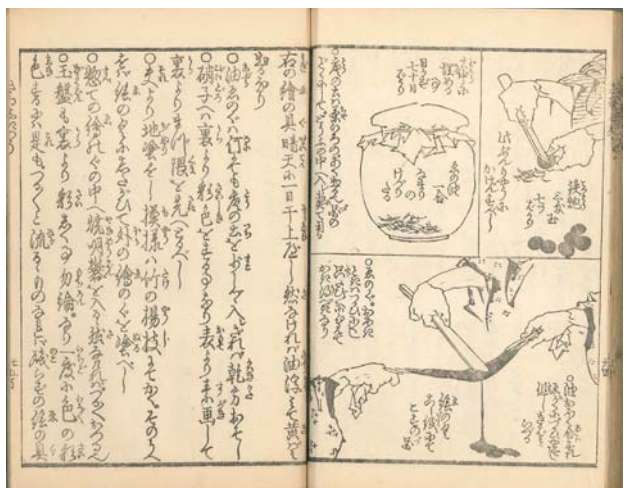


図2 『画本彩色通』初編

した。この鶏の足跡をもみじに見立てて、紅葉で有名な奈良県を流れる竜田川の風景を表現したといわれています。このエピソードが評判になり、北斎に弟子入りを請う多くの人がかけつけたそうです。北斎の絵手本の多くは、現在も目にすることができま。当時、江戸から遠く離れた地でも北斎の絵手本を通して北斎の絵を学んだ人がいたように、時空をこえて現代に北斎の新たな弟子が誕生するかもしれません。

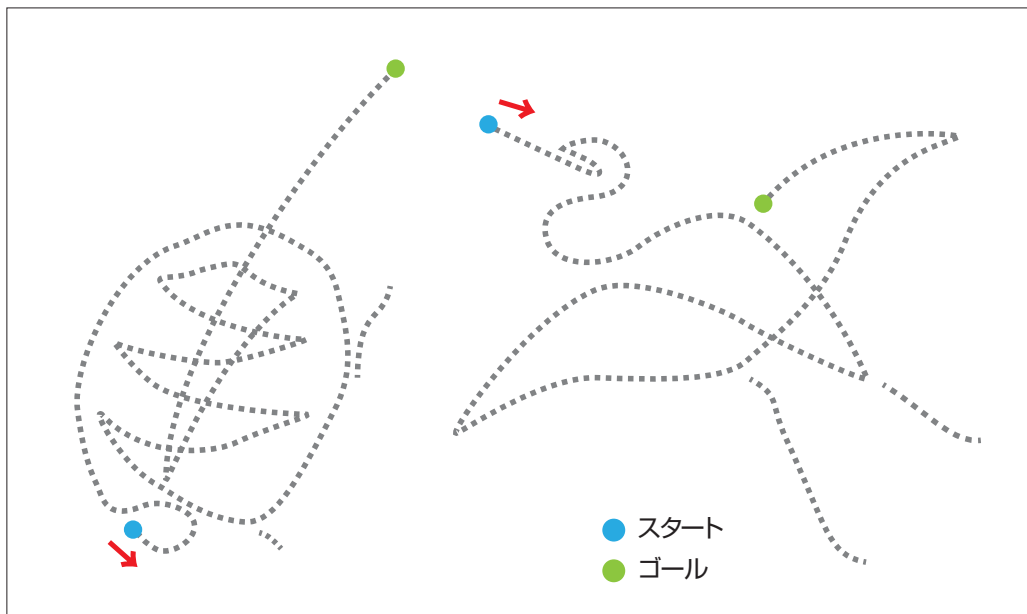
描か 鶴を 亀



今回も引き続き、北斎の『一筆画譜』という一筆書きの絵本に載っている、おめでたい鶴と亀を描いてみましょう。

一筆書きとは、紙から筆を一度も離さず、一本の線で絵を描くことです。

①の矢印に沿って線をなぞってみてね。青の点がスタート、緑の点がゴールです。まずは鶴から。最後に足を二本付け足すと飛び立つ鶴になります。



①

②

すみだと北斎

北斎は春朗と名乗っていた頃に、役者絵なども描いていたことがあります。

役者の中で、すみだ縁の人といえ、市川團十郎がいます。歌舞伎界の名門、市川團十郎家の五代目は、名優でもあり、狂歌や俳諧の才能もありました。

市川團十郎との交流

して、ましたが、北斎はこの年の前後から、白猿の依頼で摺物や狂歌本の挿絵を描くなど、二人の交流は白猿が亡くなるまで続いたようです。

文化四年(一八〇七)烏亭馬馬によって刊行された白猿追悼句集の『市川白猿念仏百首追善数珠親玉』(左図参照)に、北斎は弟子たちとともに挿絵を描いています。

享和二年(一八〇二)に舞台から完全に引退し、白猿と名乗って現在の秋葉神社(墨田区向島4-9-13)辺りにあったという向島庵崎に隠居

とりわけ、北斎が描いた白猿の肖像画は顔の特徴をよく表しています。



北斎が描いた市川團十郎(白猿)

2億円を超える寄付金が集まりました！

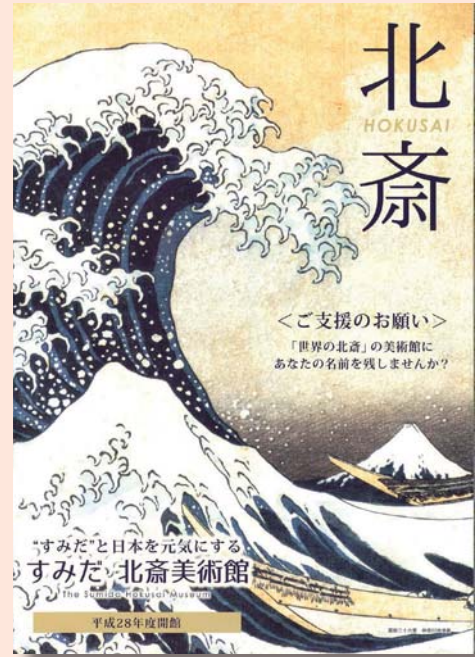
昨年7月より開始した「墨田区北斎基金」寄付キャンペーンは、皆様からの多大なるご協力により、2億円を超える寄付金が集まりました。

ご寄付をいただいた方につきましては、重ねてお礼申し上げます。

なお、現在公開中の寄付キャンペーンのホームページでは、寄付いただいた方のお名前を公表させていただいているほか、応援メンバー登録（メルマガ登録）等のメニューもご用意しておりますので、是非ご覧ください。

寄付金額（平成27年2月末現在）
206,972,210円

法人・団体 72件 / 個人 391件



葛飾北斎ゆかりの案内板を設置します

「すみだ」で生まれた世界的絵師・葛飾北斎は生涯のほとんどを区内で過ごし、多くの作品を描きました。

北斎が隅田川沿いの両国地域を中心に描いた浮世絵を用いて、見て歩いて楽しむことができる案内板を3月末に8基設置します。

案内板設置場所

- ① 富嶽三十六景 御厩川岸より両国橋夕陽見
- ② 絵本隅田川兩岸一覽 首尾松の鉤舟 椎木の夕蟬
- ③ 馬尻 駒止石
- ④ 絵本隅田川兩岸一覽 新柳橋の白雨 御竹蔵の虹
- ⑤ 絵本隅田川兩岸一覽 両国納涼 一の橋弁天
- ⑥ 新板浮絵忠臣蔵 第十一段目
- ⑦ 富嶽三十六景 本所立川
- ⑧ 千絵の海 宮戸川長縄

墨田区産業観光部観光課
☎03-5608-6500

【案内板に関する問い合わせ】
墨田区産業観光部観光課
☎03-5608-6500

すみだ北斎 株式会社 ジャパン・スリーブ 写真立て

墨田区では、区内でものづくりに携わる方々の開発商品の一助となるように、すみだ北斎美術館に収蔵する北斎作品を商用目的でご利用いただく事業を行っています。

今回紹介するのは、北斎の代表作「富嶽三十六景」より「凱風快晴がいふうかいせい」を使用した写真立てです。お気に入りの写真と北斎作品を観ること

【画像利用に関する問い合わせ】
（公財）墨田区文化振興財団北斎事業課
☎03-3829-4122

【商品に関する問い合わせ】
株式会社ジャパン・スリーブ
☎03-5625-2158

【お問い合わせください】
すみだ北斎美術館
☎03-5625-2158

ができ、表紙の絵柄は家紋になっておりインテリアとしても最適な「すみだ」の商品です。

なお、現在区内事業者を対象に、北斎作品画像の無料貸し出しをしております。

詳しくは、（公財）墨田区文化振興財団までお問い合わせください。



下記ホームページでは、すみだ北斎美術館のダイジェスト映像や、無料でダウンロードできるスクリーンセーバーなどをご用意しております。是非、ご覧ください。
<http://hokusai-museum.jp>